

間に当科で超音波検査を施行した37例のうち、病理組織学的あるいは臨床的に診断のついた25例を対象に、超音波像の分析を行い、CT 併用症例は必要に応じ CT 像との対応を試みた。内訳は、炎症9例、嚢胞5例、良性腫瘍5例、悪性腫瘍3例、その他唾石など3例。超音波像の分析は、得られた病変像について境界・辺縁、内部エコーの強度・分析、後方エコーの増強の5項目について検討した。断層像は 7.5MHz メカニカルセクタ探触子を用いたBモード法によった。その結果、辺縁と内部エコーの分布とに注目すると、嚢胞と良性腫瘍との鑑別に有効と思われた。CT との対応では、病変の内部性状の描出に、CT より優れる場合があることが示された。本領域の画像診断において超音波像を有効に利用するには、CT との両者の特長を活かした適切な連携が重要と思われる。

#### 14) Myositis ossificans の画像診断 2 症例と文献的考察

大幸実和子・似鳥 俊明 (杏林大学)  
岡田 稔・高山 誠 (放射線科)  
古屋 儀郎

myositis ossificans は骨格外骨形成を呈する良性疾患で、外傷により発症するが、実際には半数が外傷の既成なく発症している。また、生検標本の組織診断によっても soft tissue sarcoma と判別困難な例が少なくなく、無用な広範囲切除術を避けるうえで画像診断上重要な疾患といえる。

短期間に成熟を示し、特徴的な“zone phenomenon”を呈することが、病理上の本症の性格だが、画像診断上の要点もまたこの病理的特徴に相当する所見を見出すことにあるといえる。今回主に CT により上記2つの特徴像を観察し診断することができた myositis ossificans の2例を文献的考察を加えて報告した。

#### 15) リアルタイム Paging, Reformation, 3Dimage の臨床的応用

新妻 伸二・小林 晋一 (県立がんセンター)  
清水 克英・佐藤 洋子 (新潟病院放射線科)  
古泉 直也

CT の画像処理として、Paging (Interpolation Cine Mode 補完送り)あるいは Reformation, 3Dimage などの方法があるが、今回われわれの CT 装置横河製 Quantex RX に1~2分でそれらの画像処理が可能なソフトが導入された。従来は例えば 3D イメージに1時間などの、長時間の処理が必要なため、臨床応用が困難であったが、日常の検査に利用可能となった。その実

際の使用例をビデオで展示した。

#### 16) 胃間接造影法の反省

長谷川敏之・熱田 修 (新潟市医師会)

昭和59~61年の胃間接造影は、要精検率を下げることに、より効率的な集検をめざし、読影者Aのチェックしたものを、より読影経験の長いBが再チェックし、その一部を除外すると共に、B自身がチェックしたものを更にBが除外する方法を試みた。

延受診数26,291、発見胃癌99(50)、発見率0.377%、早期癌率50.51%。発見胃癌中79(79.80%)はA・Bチェック、13(13.13%)はAチェック、7(7.07%)はBチェックであった。

除外数は59年868、60年1,280、61年1,029で、要精検率は10.75~13.55%減少し、それぞれ17.34、14.14、16.54%となった。これら除外群を追跡すると、AチェックB除外206からの偽陰性0、BチェックB除外2,971から11(5)・0.370%の発見率同等の偽陰性例が発見された。即ち翌年検診発見8(4)、1年以内手術3(1)である。レトロスペクティブにみれば、進行癌 2/6、早期癌 5/5 に所見がみられたことから、除外にはより慎重な読影がのぞまれる。

#### 17) 空腸平滑筋腫瘍の3例

道野慎太郎・高木 一 (公立昭和病院)  
桜井 賢二 (放射線科)

消化管出血の原因の1つとなる小腸腫瘍は他の消化管腫瘍に比べ発生頻度が低く小腸の解剖学的位置関係より、その診断は比較的困難である。今回我々は原因不明の下血で入院した空腸平滑筋腫瘍3例を経験し、核医学検査、CT、血管撮影を施行しこれらの検査が各々腫瘍の診断に有効であったと考えられた。核医学検査では3例中2例で腫瘍への集積あるいは消化管内への出血の所見が得られた。しかし1例に対してはなんら情報を得られなかった。CT では全例小腸に一致した solid mass が描出され、血管撮影でも小腸平滑筋腫瘍の特徴的な所見を得ることができた。以上小腸平滑筋腫瘍の3例を報告した。

#### 18) 最近経験した家族性褐色細胞腫について

林 浩子・西原真美子 (新潟大学)  
木村 元政・椎名 真 (放射線科)  
武田 正之・高橋 等 (泌尿器科)

最近我々は悪性脾臓ラ氏島腫瘍を合併した家族性褐色